

グロリオサ新系統「高育1号」の催芽方法

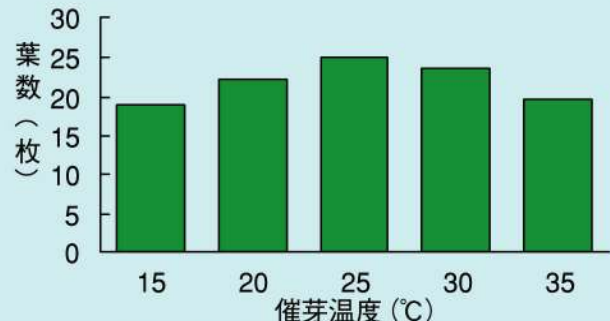


図1 催芽温度と葉数との関係

注) 40～50gの塊茎を50日間催芽して、最低夜温15℃加温、25℃強制換気のビニルハウスに11月21日に定植。

写真
表1 赤橙色新系統「高育1号」における催芽期間と生育との関係^{z)}

催芽期間 (日間)	採花日 (月/日)	茎長 ^{y)} (cm)	(A)花序長 ^{x)} (cm)	(B)草丈(A+B) (cm)	花蕾数 (個)	茎径 (mm)	採花後の 葉数(枚)	新塊茎重 ^{w)} (g/塊茎)
21	2/13	126.5	52.5	179.0	5.7	4.8	20.1	77.0
28	2/13	121.4	54.5	175.8	5.8	4.8	19.7	76.2
35	2/14	127.0	53.3	180.3	5.8	5.1	20.5	70.5
42	2/17	131.3	55.4	186.7	6.0	5.1	20.7	67.6
49	2/17	132.6	51.7	184.3	6.0	5.1	19.6	66.1

z : 40～60gの塊茎を25℃で所定の期間催芽して11月29日に最低夜温15℃加温、25℃強制換気のビニルハウスに定植。6輪を目標に摘蕾して3輪開花時に長さ90cmで採花。各区16塊茎、反復なし。

y : 地際部から側枝発生節までの長さ。

x : 側枝発生節から花序先端部までの長さ。

w : 平均採花日の60日後に新塊茎を掘り上げ。

従来、グロリオサは花色のバラエティが少なく、赤色や黄色が主な花色でした。そこで、当センターで新しい花色の品種育成を目指した結果、赤橙色のグロリオサ「高育1号」が育成されました。しかし、「高育1号」は既存品種の「ミサトレッド」等と比べると草丈が短く、既存品種と同様に長さ90cmで採花すると切り下部分の長さが短くなり、新塊茎の肥大に課題がありました。

一方、既存品種では催芽方法によって葉数や草丈が変わることがわかっています。そこで、「高育1号」について、高品質な切り花を採花しつつ、採花後に葉を十分に残して重い新塊茎を得るための催芽方法を検

討しました。

催芽温度を、20～30℃にすることによって葉数を多くすることができました(図1)。そこで、25℃で催芽日数を検討したところ、21～49日間では茎長、草丈、花蕾数等の切り花品質に大きな差がありませんでした(表1)。また、いずれの催芽日数でも母塊茎より大きな新塊茎が得られました。

このことから、催芽は既存品種と同様に30日程度行えば良いと考えられました。なお、催芽温度についてはさらに検討しています。

(花き担当 二宮千登志 088-863-4918)